

# 感染症科

## 1. 体制

感染症科は、平成 21 年から感染制御対策室と同義であり、院内感染制御対策と感染症診療支援業務活動を行ってきたが、平成 28 年度の平成 29 年（2017 年）1 月より感染制御対策チーム（ICT）と感染症科（感染症診療支援）に分かれて業務を行っている。今年度の特徴としては、2018 年度より始まった抗菌薬適正使用支援加算に即応した院内教育・診療体制の充実とメンバーの丸毛聡先生が部長に昇格したことである。

## b. スタッフ

医師：

羽田 敦子	小児科部長、感染症科兼務	部長
丸毛 聡	呼吸器内科・感染症科兼務	部長
上村 良	消化器外科・感染症科兼務	副部長
井上 大生	呼吸器内科・感染症科兼務	副部長
藤田 昌昭	リウマチ膠原病内科・感染症科兼務	副部長
中島 俊樹	リウマチ膠原病内科・感染症科兼務	副部長
山本 和代	血液内科・感染症科兼務	副部長
瀬野 陽平	糖尿病内分泌内科	専攻医
濱田 健輔	消化器内科・感染症科兼務	専攻医
山本 真義	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
菊谷 明広	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
内原 嘉仁	小児科・感染症科兼務	専攻医
岩田 直也	小児科・感染症科兼務	専攻医
大橋 倫子	リウマチ膠原病内科・感染症科兼務	専攻医
新美 完	脳神経内科・感染症科兼務	専攻医
杉本 悠	研修医	
酒井麻里子	研修医	
辻本 考平	リウマチ膠原病内科・感染症科兼務	非常勤

看護師（専従感染管理認定看護師）：

高詰 江美 師長

薬剤師：

高橋 有 薬剤部主任

小林 和博

上田 覚 薬剤部係長

臨床検査技師：

宇野 将一 臨床検査技師部主任

中塚 由香利 臨床検査技師部主任

## b. 診療実績

### 1. 感染防止対策加算対象の院内感染症に関する取り組み

#### （1）感染症治療介入

管理抗菌薬使用患者、血液培養陽性患者、重症感染症患者をリストアップし、毎週木曜日にカンファレンスを行い、患者の病状や抗菌薬の使用状況の確認、感染症治療の指導を行った。平成 31 年度は 2199 件であった。（平成 30 年度 1884 件、29 年度 2322 件、28 年度 2126 件、平成 27 年度 2289 件、平成 26 年度 2772 件）。

内訳：

リ膠	眼科	形外	血液	呼内	呼外	産婦	児外	耳鼻	小児
101	5	31	468	327	22	50	17	17	89

消外	消内	心外	循内	脳神外	脳神内	泌尿	腎内	整形	糖内
242	227	21	122	69	61	79	125	51	13

乳腺	皮膚	精神	腫内	救急	外来	計
36	21	0	1	1	0	2199

(2) 抗菌薬の適正使用の推進 (Antimicrobial Stewardship Team, AST 活動)

i. 抗 MRSA 抗菌薬・広域抗菌薬の使用状況の確認

抗 MRSA 抗菌薬については、TDM を通して使用状況を確認し、適正使用を推進した。TDM 症例でコントロールに難渋する症例や長期投与症例については、感染症カンファレンスの際に感染症科医師と検討し、診療支援を行った。

(1) TDM 対象外の抗 MRSA 抗菌薬や広域抗菌薬について、また、使用方法に疑問があれば AST 担当薬剤師が相談に応じた。使用状況を確認し、各病棟での使用状況を病棟薬剤師が監視した。その際に解決できない症例については、抗菌薬ラウンドでの ICT による検討、感染症専門医への適宜相談等を行い、抗菌薬の適正使用を推進した。

1. 広域抗菌薬長期投与者への介入

(1) 2015 年 1 月より、カルバペネム系抗菌薬を 15 日以上継続投与中の患者を長期投与者としてリストアップし、切り替え提案や適正使用を促す等の介入を開始している。平成 31 年度は、カルバペネム系抗菌薬、タゾバクタム・ピペラシリン長期投与者は 79 件(延べ 55 人)、抗 MRSA 長期投与者 68 件(延べ 34 人)となり、合計件数は 147 件(延べ 89 人)と増加した。(平成 30 年度 77 件、平成 29 年度 72 例、89 件、平成 28 年度 49 例、平成 27 年度 55 例)。対象患者数は横ばいであった。

2. 職員研修

- (1) 2019 年 3 月 29 日新入職研修医 医師研修「抗菌薬適正使用について 北野病院(AST・感染症科)の取り組み」講師：小林和博 薬剤師
- (2) 2019 年 6 月 15 日新入職医師 医師研修「抗菌薬適正使用について 北野病院(AST・感染症科)の取り組み」講師：小林和博 薬剤師
- (3) 2019 年 12 月 4 日(院内医師向け研修会) 血液培養勉強会「カテーテル関連血流感染症(CRBSI)診療について—成人編—」講師：血液内科 山本和代、「小児における血液培養の実際と課題レジュメ」講師：SR2 岩田直也
- (4) 2019 年 12 月 7 日 SR 向け救急講義「抗菌薬の使い方」講師：小児科 羽田敦子医師

3. 感染症科業務

- ① 血液培養陽性患者アラート 月～金曜日  
血液培養陽性患者に対して、適切な抗菌薬投与が開始され、中心静脈カテーテルの抜去や血液培養陰性化確認等感染管理上の適切な処置がなされているか確認し、翌カンファレンスにて介入症例を検討の上、指導した。H31・R 元(2019)年度は 977 件であった。H30(2018)年度 819 件、H29(2017)年度 487 件、H28(2016)年度 603 件、H27(2015)年度 232 件である。
- ② 感染症診療対診+随時コンサルテーション  
主に院内感染症に対する抗菌薬選択、投与期間等について、2019 年度は 87 件。(2018 年度 108 件、2017 年度 108 件)の対診と随時コンサルテーションを受けた。
- ③ B 型肝炎防止プロジェクト 月 1 回  
前年度に引き続き、免疫抑制・化学療法により発症する B 型肝炎再活性化防止対策として、対象診療科の医師宛に 2019 年度は 6467 件の検査警告メールを配信した(2018 年度 4895 件、2017 年度 5890 件)。また、随時質問を受けている。

対象：抗癌剤、免疫抑制剤、抗リウマチ剤、ステロイド（中等度以上長期にわたる症例）投与患者のうち、HBs 抗原、HBc 抗体、HBs 抗体検査が未実施の患者

- ④ 入院中 TB アラート 月 1 回  
長期入院で結核発症リスクの高い患者を抽出し、担当医ヘレントゲン撮影および抗酸菌培養を勧告。
- ⑤ 梅毒アラート 月 1 回  
梅毒検査陽性患者に対し、適切な検査と治療が行われているか確認し、必要に応じて指導した。届け出されていない場合には保健所に届けるよう勧告した。
- ⑥ 感染症専門医 取得指導  
日本感染症学会認定感染症専門医取得のため、受験予定の医師 3 名（当院リウマチ膠原病内科藤田昌昭、元総合内科 田中孝正、元呼吸器内科 松本正孝）に対して、2019 年度末までに症例検討と指導及び文書作成を行った。

### c. 研究実績－論文・学会発表のテーマ・発表者

#### (1) 論文

##### 原著

1. Iki Y, Hata A, Fukuyama M, Yoshioka T, Watanabe K, Asari S, Hata D.  
Successful Conservative Treatment of Mycotic Pulmonary Artery Aneurysms Caused by MRSA Bacteremia. *Pediatrics* 144(5) e20190672 2019
2. Yuiko Sato, Mitsutaka Shiota, Kouta Sasaki, Atsuko Hata, Daisuke Hata  
Early therapy with corticosteroid and surfactant for acute idiopathic pulmonary hemorrhage in infants  
*Medicine (Baltimore)* 2020 May 22; 99 (21): e20281
3. 羽田敦子, 辻本考平, 中塚由香利, 宇野将一, 小林賢治, 丸毛聡, 加藤健太郎<sup>1)</sup> 秦大資  
新生児侵襲性 B 群連鎖球菌 (GBS) 感染症防止を目的とした妊産婦 GBS スクリーニング検査および予防方法に関するアンケート調査  
Post-implementation survey assessing strategies to prevent neonatal group B streptococcal disease in Japan.  
*感染症誌 in press*
4. 伊藤俊和、高橋有、上田覚、尾上雅英  
バンコマイシンの血中濃度モニタリングにより目標血中濃度に到達できた超低出生体重児 1 例  
*TDM 研究* 36(3):125-129 (2019)

#### (2) 学会発表

- 羽田敦子、中塚由香利、宇野将一、小林賢治、辻本考平、丸毛聡、吉岡孝和、秦大資  
新生児侵襲性 GBS 感染症予防のための妊婦 GBS 保菌スクリーニング法実態調査  
第 93 回日本感染症学会総会・学術集会  
2019 年 4 月 6 日 名古屋市
- 中塚由香利、宇野将一、南奈月、小林賢治、土屋咲子、田畑宏道  
当院における 2004 年と 2017 年の ESBL 産生大腸菌の比較について  
第 68 回日本医学検査学会 2019 年 5 月 19 日 (山口県・下関市)
- 谷口麻由加、伊藤俊和、上田 覚、三宅麻文、尾上雅英  
薬剤師による小児科クリニカルパスの抗菌薬変更に対する介入効果  
第 46 回日本小児臨床薬理学会学術大会 2019/9/28-29 (札幌市)

- 小林和博、高橋 有、上田 覚、尾上雅英  
AS (Antimicrobial Stewardship) 活動による抗菌薬の使用量と耐性緑膿菌の検出率に及ぼす影響  
第 29 回日本医療薬学会年会 2019/11/2-4 (福岡市)
- 加藤健太郎、羽田敦子、吉岡孝和、秦大資  
当院小児科における A 群溶血性連鎖球菌性咽頭炎の疫学と治療の実態  
第 51 回日本小児感染症学会総会・学術集会  
2019 年 10 月 26 日 北海道 旭川市
- 上田 覚、高橋 有、小林和博、羽田敦子、片山俊郎、尾上雅英  
Antimicrobial Stewardship Team (AST) 活動が臨床医の抗菌薬選択に及ぼす影響  
第 29 回日本医療薬学会年会 2019/11/2-4 福岡市
- 井上大生・北島尚昌・丸毛聡・福井基成  
「非 HIV 感染患者におけるスルファメトキサゾール・トリメトプリム合剤によるニューモシスチス肺炎予防効果の持続時間の検討」  
第 89 回感染症学会西日本地方会 2019 年 11 月 8 日 浜松市
- 羽田敦子、小松奈穂子、高橋明日香、河原宏之、高橋有、片山俊郎、小林由佳、渡辺武、大久保孝義  
糖尿病患者における生水痘帯状疱疹ワクチン接種後の水痘ウイルス特異的細胞性免疫能の検討  
-二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験  
第 23 回日本ワクチン学会 2019 年 12 月 1 日 東京都

### (3) 院外活動

#### 講演

1. 上田 覚 抗菌薬が効かないときに考えること  
2019 年度大阪抗菌薬倶楽部 (大阪 ABC) 研究会 2019/6/22 (大阪市)
2. 羽田敦子  
10<sup>th</sup> Infection Control forum in South Area of Osaka (ISA0)  
麻疹・水痘ウイルス感染制御  
2019 年 8 月 22 日 大阪市
3. 羽田敦子  
第 9 回武庫川糖尿病カンファランス  
帯状疱疹予防のための水痘ワクチン接種  
2019 年 8 月 29 日 兵庫県
4. 上田 覚 自施設での AST の現状と課題 感染 web セミナー～AST の現状と抗菌薬の適正使用  
～  
2019 年 11 月 20 日 (大阪市)
5. 羽田敦子  
帯状疱疹予防のための水痘ワクチン接種  
PARTNER 全国 Web 講演会 帯状疱疹と糖尿病  
2020 年 2 月 19 日

6. 上田 覚  
抗菌化学療法の基本と薬剤師の関わり  
舞鶴地区 第42回 学術講演会  
平成31年1月30日 京都

- (4) 講演会  
ICD認定更新用講習・教育企画、外部講師招聘  
第17回北大阪感染症研究会 2019年9月13日  
～*C. difficile*感染症のトピックス～

一般演題 座長：北野病院 呼吸器内科・感染症科 部長 丸毛 聡 先生

一般演題1『当院臨床分離株におけるESBLs産生菌の検討』北野病院 細菌検査部・感染症科  
主任 中塚由香利

一般演題2『当院におけるCD腸炎の現状』北野病院 消化器内科・感染症科  
濱田 健輔 先生

**教育講演**

座長：北野病院 感染症科・小児科部長 羽田 敦子 先生

『ESBLs産生菌に関する最近の話題』

演者：聖マリアンナ医科大学 感染症学講座 教授 國島 広之 先生

**特別講演**

座長：北野病院 感染症科・小児科部長 羽田 敦子 先生

『*Clostridioides difficile*感染症に関する最近の話題』

演者：愛知医科大学大学院 医学研究科 臨床感染症学 主任教授 三嶋 廣繁 先生